

みんなが気になる図書館の



そこが知りたい！



Q * 白浜町に図書館はいくつありますか？

A * 4館です。（本館、白浜・富田・日置分室）

Q * 各図書館にはそれぞれどんな本がありますか？

本館：子ども向け・郷土資料・雑誌・DVD

A * 白浜分室：大人向け・雑誌・DVD

富田・日置分室：子ども・大人向け・雑誌

Q * 小さな文字が読みにくいのですが大きな字の本は置いてありますか？

A * 大活字の本があります。小説や随筆が多いです。
新刊もそろっています。

Q * 読みたい本があるのですが、本のリクエスト予約はできますか？

A * 貸出中の本は返却されたらご連絡します。ない本は県立図書館・
近隣の図書館でさがします。購入できる場合もあります。

Q * 図書館を一言で言うと？

A * 「本棚に眠る宝石箱」。魅力いっぱいの本があなたを持っています！



ぜひ図書館へお越しください！！

📣 図書館情報 📣



町内に「くるクル文庫」を設置しています



「（人が）くる（リサイ）クル文庫」という意味で、皆様がご自由にお持ちいただける本（リサイクル本）を下記施設に設置しています。ぜひご利用ください。

はまゆう病院受付ロビー・JR白浜駅待合室・
平草原公園事務所・白浜町立児童館・
樺出張所・白浜町立住民交流センター・
白浜町役場介護保険係受付・養護老人ホーム椿園





“私の思い出の一冊”

「悲劇の少女アンネ」～「恐怖」と「生きることの尊さ」～

『悲劇の少女アンネ』
シュナーベル/著 偕成社

白浜町教育委員会
教育長 西田 拓大

皆さんは、どんな時に本を読みますか。
読みたい本がある時、学校での読書の時間、心を穏やかにしたい時、暇つぶし、あるいは情報や学びを得たい時など、さまざまだと思います。

私は幼い頃、体が弱く、寝込むことが多くありました。さらに父の転勤で小学校を転々とし、親しい友人もほとんどいませんでした。そんな時、病気で寝込む私の枕元には、母が必ず本を置いてくれました。体調が少し良くなると、その本を読むのが楽しみでした。

その中で今も心に深く刻まれているのが『悲劇の少女アンネ』です。

この本は、13歳——まさに中学生の年齢であったアンネ・フランクが、自らの思いや願いを日記につづった言葉をもとにしています。アンネは第二次世界大戦、ナチス・ドイツの占領下にあるオランダで、支援者の温かな手に守られながら、家族や仲間とともに小さな隠れ家で、早く戦争が終わるのを願い、暮らしていました。けれどもその希望は、密告によって断たれ、ゲシュタポに捕らえられてしまいます。やがて強制収容所へ送られ、若き命は絶たれることとなりました。

この本を通して、私は二つのことを強く感じました。

一つは「恐怖」です。生まれの違いだけで差別され、苦しめられ、命を奪われる。それがどれほど恐ろしいことかを実感しました。

もう一つは「生きることの尊さ」です。絶望的な状況にあっても、恋をし、自然の美しさを語り、生き抜こうとしたアンネの姿に、強い生命力を感じました。

私が幼い頃、原爆投下の日や終戦の日には、家族で平和記念式典を見ながら黙祷をするのが習慣でした。特に強制されたわけではありませんが、自然と身についていました。その影響か、教師になってからも、教育長となった今も、「平和」が最も大切な学びだと考えています。

「人を殺すな。差別をするな。困っている人にはすぐに手を差し伸べよ。」

これは、私が義父からいただいた言葉です。これからも、この言葉を大切に守っていきたいと思います。

アンネの日記は、そういう私の思いの原点になった本です。そして、この本と出会った機会を作ってくれた母に感謝しています。

白浜町立図書館は、本館と3分室あります。

- *本館（グルメシティ白浜店様横）子どもの本が中心 電話43-2922
- *白浜分室（中央公民館 2階）大人の本が中心 電話42-4564
- *富田分室（農業研修会館 1階）子どもの本も大人の本も 電話45-0048
- *日置分室（日置川拠点公民館 1階）子どもの本も大人の本も 電話52-2660